

海鳥

小笠原諸島への唯一の交通手段は船で、東京から丸一日かかる。出発して 20 時間もすると鳥たちが姿を現し、フェリーと並行するように飛びながらフェリーに追い出されたトビウオを捕まえ始める。

到着の 5 時間ほど前になると、たいてい最初に姿を現すのがカツオドリ（英名ブラウンブービー）だ。そのツヤのある大きな体で悠々と滑空し、水中に一直線に突っ込んで、獲物を狙って数メートルの深さまで潜る。ブラウンブービーという名前が示すとおり背と翼は褐色であり、幼鳥の下面は灰色またはまだら模様の褐色である。2 年後、成鳥の下面は白くなる。

島に近づいてくると、オナガミズナギドリもよくフェリーの近くで見ることができる。飛ぶ際に翼が波の先端を切ったり薙いだりするように見えることからその名が付けられた。一般的に色は褐色で、下面は白色である。魚を捕えるため、14 メートルより深く潜ることもよくある。

夜中に小笠原への航海中、フェリーは父島の手前に最後の主島である鳥島（とりしま）という小さな無人島のそばを通過する。文字どおり「鳥の島」を意味するこの島は、アホウドリ（体がほぼ白色で、翼は先端部分が黒い）の数少ない営巣地のひとつとなっている。アホウドリはやわらかい羽毛採取のために捕獲され、1930 年代にはほとんど絶滅してしまった。しかし、鳥島（とりしま）の繁殖地に加え、鴎島（むこじま）に新たに作られた繁殖地のおかげで、その数は少しずつ回復しつつある。